



KENMEI GAKUIN

# 2023年度 学校評価

- I 幼稚園自己評価の結果の報告書
- II 小学校自己評価の結果の報告書
- III 中学高等学校自己評価の結果の報告書
- IV 高等学校通信制課程自己評価の結果の報告書
- V 学校関係者評価

学校法人 賢明学院

## 令和5年度(2023年度) 自己評価の結果について

学校法人賢明学院 賢明学院幼稚園

### 1、本園の教育目標

—豊かな心、たくましく生きる人間性の基礎を育てる。—  
カトリックの精神に基づいた教育によって、神と人々の前で誠実に生き、人間味豊かな人格を育てることを目標とする。子どもたち一人ひとりの個性を大切に、子どもたちの持つ可能性を最大限に引き出し、愛する心、祈る心、感謝する心を養い、お互いの気持ちを大切にできる子どもたちを育成する。

### 2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

安心できる整えられた環境の中、自主自立を確立させ、心身の調和がとれた人格を形成する

### 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
<b>1、宗教教育</b> <b>祈りとともに育つ。</b> ○友だちと一緒に活動する楽しさを味わう。 ○子どもはお祈りをしている。	<ul style="list-style-type: none"><li>・シスターの話聞き、行事について理解を深めたり、身近にいる人への思いやり（隣人愛）をもって過ごせるよう、年間通してマリア様にお花をお捧げする活動を実施した。それにより子どもたちや教員が保育の中でさらに意識して、他者を思いやり過ごすことができた。</li><li>・毎日、朝や昼食時、帰りの祈りに取り組み、自分の言葉で共同祈願を考え、すべての行事に参加することができた。</li></ul>
<b>2、自主自立の保育</b> ○園生活を通して子どもは生活習慣が身についている。 ○子どもが主体的に活動しようとする意欲を育てる。	<ul style="list-style-type: none"><li>・個々の様子を観察や記録をとり、適切な援助ができるように全職員で共通理解し、指導にあたった。</li><li>・運動会や発表会など、子どもたち同士で意見を出し合い、受け身ではなく自主的に行動できるよう工夫した。</li><li>・子ども一人ひとりが存分に興味のある活動に取り組むことができるように、各学年の発達段階に応じた環境を整え、適切な教材を提供したことで、集中して取り組む姿勢が身に付き、達成感を味わう姿が見られた。</li></ul>
<b>3、未就園児クラスの充実と満3歳児保育への移行</b> ○子育て支援について積極的に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"><li>・未就園児クラスでは母子同室クラスと母子分離クラスがあり、子育てのサポートを行っている。母子分離クラスは、幼稚園と同じように生活を行うことで入園前の準備期間になるようにした。満3歳児クラス入園時には、保護者や子どもが安心して</li></ul>

	入園できるように導入保育を行う。また、低年齢に応じたモンテッソーリ教材を手作りし、家庭でも実践できるよう工夫した。
<b>4、英語教育を通して国際的関心を養う。</b> ○英語に親しみ、楽しみながら学んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを使って、一人ひとりが意欲的に参加することで英語をより身近に感じることが出来た。</li> <li>・子どもが積極的に外国語活動に取り組めるように、個人のテキストを使って英単語に慣れるようにした。また、習った英単語や英語の歌、英語劇を発表会で披露する機会を設け、子どもたちの自信に繋がった。また年長児対象ではあるが、希望で英検 Jr に挑戦した。</li> </ul>
<b>5、教員は資質を向上させるため、研鑽する。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が意欲的に学べるよう教員の学びたい分野を聞き取りながら、モンテッソーリ教育の園内研修を行い、教具の練習の機会を設けた。また、園内研修保育ではモンテッソーリのお仕事の時間で実施した。また、他の教員も観察することで教員同士の学び合いにもなった。</li> <li>・毎月の職員会議では、子どもの様子を振り返り、教員としての観察力を高めている。</li> </ul>
<b>6、保護者への対応</b> ○適切で正確な情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染防止に配慮しながらも、月一回の幼稚園集会を全学年で実施することができた。毎月、動画を作成し子どもたちの様子と共に園の教育方針や行事についてより深く理解してもらうきっかけになった。SNS を積極的に活用し保護者の満足度に繋がるように引き続き工夫した。</li> </ul>

#### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>新型コロナウイルスが5類になったことにより、行事を改めて見直しながらも多くの行事を実施することができた。幼稚園集会（保護者会）は、毎月実施し、各学年の行事に対する子どもたちの姿を動画で観ていただくようにした。その結果、園の教育方針や活動を保護者様に理解してもらえる良いきっかけになった。保育では、混合保育を段階的に実施し、異年齢でのかかわりを持つことができた。子どもたちの自主自立という点では、運動会や発表会の行事に対し、意見を出し合い自分たちで作りあげる行事になってきた。子どもたちが幼稚園生活の中で友だちと一緒に学び合い、充実した日々を過ごすことができるように引き続きカリキュラムの立案や行事の内容を深めていきたい。</p> <p>私たち教員は、今後も子ども一人ひとりをよく観察し、それぞれの発達段階に即した個別の指導を行っていきたい。子どもたちが安定して幼稚園生活を送ることが保護者の満足度に繋がると考えられる。さらに、教職員の資質向上のため、様々な研修の機会を積極的に計画立て、具体的な目標を持ち自己研鑽していきたいと思う。</p>
---

#### 5 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自主自立の保育の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活や行事を通して子どもが興味をもち、様々な活動に自主的に挑戦しようとする気持ちをさらに育て、そのための整えられた環境を準備する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会議を設け、一人ひとりに応じた援助内容を共有し、全職員で指導にあたっていく。</li> </ul>
保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月実施の幼稚園集会や、送迎時に保護者の方々とコミュニケーションをとる機会を電話連絡やSNSなどで工夫する。</li> </ul>
体力の増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内や戸外での運動遊びの研究を行い、子ども達の発達段階に即した内容を取り入れていく。</li> </ul>
宗教教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おつけものデーを通して世界の困っている人に目を向け、他者に思いやりの気持ちを育むようにする。また、日常生活を通して、身近にいる人を思いやる気持ちを育む。</li> <li>・創立者の「よいことは何でもしなさい」の言葉を受けて、「私にできるよいこと」を具体的な事項として考え、実践する。</li> </ul>

## 6 学校関係者の評価

別紙の通り
-------

## 7 学校会計について

公認会計士監査により、無限定適正意見が表明されている。
-----------------------------

2023年度 賢明学院小学校 学校評価PDCA

学 校 名:賢明学院小学校  
 評価責任者:校長 谷口 晋哉

	Plan		Do	Check		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	建学の精神を土台にした教育をすすめる	① 祈りを通じて神への畏敬の念を養う教育活動ができている。	① 新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを機に、ミサや祈りの集いなどで元通りの進行を行い、分かち合いや共同祈願などを通して、祈りの習慣をつける。	① 宗教行事を元通り行うことで、お祈りを大切にしている児童の割合が明らかに増えている。宗教研修を3回、夏季研修を1日実施し、携わる教員側の意識を高めることもできた。	目標 100% 到達 97.5%	① 教師も児童も祈りの習慣が身につけているので、祈りの時を過ごすことが、心の安定と落ち着きにつながることをさらに実感させる。
		② 創立者について学び、帰属意識を高める教育活動ができている。	② 宗教の時間や祈りの集い、聖母月の集いなどを活用し、カリキュラムに基づいて、聖マリーリエについて学びを深め、相互協力のもと学年、学級の仲間と心のつながりを強めさせる。	② 教員が宗教研修や夏季研修で創立者についての学びを深めることで、児童の創立者についての学びも深まっている。	目標 100% 到達 94.7%	② 毎年新たな教員を迎える現状の中で、宗教研修を繰り返すこと、質と量を充実させていくことが大切である。来年度は夏季研修の充実を図る。
		③ 感謝と奉仕の精神を培う取り組みが各行事に組み込まれている。	③ すべての行事をりの形式で行い、自ら感謝する心や人の役に立とうとする意識を高め、言葉や行動に表せるようにさせる。宗教委員会やリエジュニアの児童に率先して活動を促し、児童主体の取り組みをさせる。	③ あらゆる式典、行事で、祈りの大切さを意識した実践が行われている。マリーリエの教えである進んでよいことをするよう心掛けている児童の割合が増えている。	目標 100% 到達 97.3%	③ 児童会活動や委員会活動、リエジュニアの活動で、感謝の心を持ち人のために役に立とうとする児童主体の取り組みをさらに充実させる。
		④ 式典や行事を通じて宗教心を培う活動ができている。	④ 計画性をもって宗教行事を企画・推進し、提案時点から緻密に準備し、実行する。それをもとに各学年、各学級で諸活動に生かし、宗教心を培う。	④ 宗教行事が、系統立てて実践され、特にクリスマス関連の取り組みが充実してきている。宗教行事を大切にしている児童の割合が増えている。	目標 100% 到達 97.5%	④ 系統立てて実践されている式典や行事を、児童が主体となって実施できるようさらに工夫を重ねる。
2	安心できる学級の実現	① 楽しい学校生活を送ることができるよう児童への支援ができている。	① 毎朝のお祈り、調身・調息・調心、モジュール学習、朝の会を確保し、落ち着いた雰囲気の中で学校生活をスタートさせる。その日に起こった課題はその日のうちに解決できるよう努める。	① 祈りに始まり祈りに終わる1日の学校生活が定着し、学校全体に落ち着きのある雰囲気が漂っている。落ち着いて学習できていると回答した児童の割合が高学年を中心に増えている。	目標 100% 到達 96.2%	① 落ち着きのある雰囲気の中で学校生活を送れるよう、児童一人一人に目を配り声をかける支援を継続する。
		② いじめ撲滅を目指した生活指導を行い、全教職員で取り組む。	② 日頃から児童一人一人の理解に努め、「けんしょうアンケート」の記述から実態を把握する。気になる事象を見逃さず、児童間の課題に迅速に対応し、指導する。	② 毎月の「けんしょうアンケート」から実名のあがった児童について、学年担当教員で指導に取り組み、職員会議等で報告を行った。	目標 100% 到達 93.8%	② 引き続き、「けんしょうアンケート」実施とその分析を進めるとともに、いじめのない学級づくりを目指し、児童の少しの変化に気づく教師の目を磨く。
		③ 衛生的な配膳を行い、安全な給食を実現する。 食に対する感謝の心を養うことができている。	③ 手洗い、アルコール消毒の励行、給食エプロンを正しく着用させ、配膳から給食終了まで黙食を行う。食べ物を大切にす態度、調理してくださった方々への感謝を込めて、残食を減らすように指導する。	③ エプロン着用、黙食は今年度も定着していた。食前食後のお祈りの中で、感謝の気持ちを表し、個々に食べる量の調整を行うことが残量を減らすことにつながっている。	目標 100% 到達 93.1%	③ 衛生、安全に気をつけつつ、食べ物を大切にし、感謝していただく態度を定着させる。

3	教師の指導力向上と授業改善	①国語・算数を中心とした授業の質の向上を目指して授業研究をする。	① 国語科、算数科で研究授業を行い、事前研、事後研を通じて研究を深めるとともに全員が公開授業を行う。私小連の研究会に参加し、他校の取り組みからも学ぶ。	① 教科部会の取り組みとして質の高い授業実践が見られ、全国大会等での研究発表を行った。経験の浅い教員が普段から空き時間などに、先輩教員の授業を見学に行く姿が見られた。	目標 100% 到達 96.2%	① 研究推進を中心として、教科研究を積み重ねた内容を共有し、経験の浅い教員の指導力アップを図る。
		② 宿題やノート指導など学習習慣の基礎を強化する。	② ノート指導の充実とともに、タブレットの効果的な活用を行う。学習習慣の基礎が身につく指導を検討し、実践する。	② ノートとタブレットの併用が高学年を中心に定着してきた。	目標 100% 到達 95.3%	② 学習習慣の基礎については、低学年のうちに身につけさせるよう重点的に実践する。
		③ 国語力算数力を向上させるために、朝のモジュールを活用する。	③ 短時間のモジュール学習であっても、適切に評価し、学習意欲を高めさせる。自ら評価をさせ、能動的に学習を進められるようサポートする。	③ 言葉、漢字、計算等の基礎的な学習の定着に効果を上げ、児童のスピード感のある意欲的な学びの場面が多く見られた。	目標 100% 到達 95.2%	③ 学習のマナー化を防ぐため、常に新たな学習スタイルの研究を進める。
		④ 情報機器を活用し、効果的な授業を展開する。	④ 一人一台のタブレット端末を効果的に活用させ、学習効果を上げる。	④ タブレットを調べ学習などの際のツールとして活用することが、高学年を中心に定着してきた。	目標 100% 到達 91.4%	④ 学習効果を上げるため、タブレットの効果的な活用について研究を深め共有する。
		⑤ 学習指導要領に対応したカリキュラムを確認しながら授業を行い、目標達成に努めている。	⑤ カリキュラムを修正・発展させ、児童の実態に応じた指導計画を立て実践する。各教科とも目標の達成を目指した授業づくりができるよう校内外研修に参加する。	⑤ 国語、算数を中心に無駄のないカリキュラム編成を実践することで学習効果を上げていることは、学力調査の結果などからも明らかである。	目標 100% 到達 97.4%	⑤ 児童の実態を見極めたうえで、毎年、カリキュラムの修正を実施する。
		⑥ 児童自ら考え発言し、分かりやすい言葉で伝え合うことができる授業が展開されている。	⑥ 学級経営を基盤とした学び合う集団作りに努め、ペア学習、小集団学習での学びをすすめる。	⑥ 高学年を中心に互いを否定せず聴きあい、学び合う小集団での学習スタイルができてきた。	目標 100% 到達 83.6%	⑥ 学び合うための環境整備として、「i-Laboratory」ルームを設置し、活用する。
		⑦ 学級経営力向上のため、教室の整理整頓と朝の会・終わりの会の二点について指導力を高める。	⑦ 児童が主体的に進めることができる意欲付けと、実践力をつけるため、学級で目標を立てて整理整頓を行い、終わりの会での一日の振り返りを大切にする。	⑦ 朝の会、終わりの会は学年に応じた内容で児童主体で実践できた。児童があわただしい時間設定で教室移動等をするなど教室内の乱れがある場面を見かけた。	目標 100% 到達 94.1%	⑦ 1日の動きを朝の会で確認し、児童が計画的に見通しを持って落ち着いて行動できる仕組みを構築する。
4	生活指導 「自主」「自立」「自律」をめざした生活 <基本的習慣を特に充実させる>	① 賢明の挨拶、立ち止まって挨拶することの大切さを指導する。	① 伝統である「Stop bow and smile」を義務でなく、すすんで実践できるよう児童会主体でのあいさつ運動などに取り組む。	① 登校時は MARIA 像の前で手を合わせ、エントランスに入る際の挨拶は習慣づいているが、廊下などで出会った時の挨拶が不十分な児童もいる。	目標 100% 到達 93.0%	① 人とのつながりの中で挨拶の大切さを指導するとともに「Stop bow and smile」を賢明学院の良き伝統ととらえて継続指導を行う。
		② 集団での移動は、沈黙で移動することを指導する。	② 現在ノーチャイム制が効果的に作用しているが、発達段階に応じて、学年で指導する。	② 集会や朝会での移動の際は、整列し沈黙を守っての移動ができているが、グラウンドから戻る際などに騒々しい場面が見られる。	目標 100% 到達 87.7%	② 時間への意識をさらに高めるとともに、グラウンドから戻る際などの、遊ぶ場面、学ぶ場面の切り替えについて指導をする。
		③ 通学の安全とマナーについて指導する。児童がマナーとルールを守って登下校できるように指導する。	③ 児童自身が交通安全を意識し、公共交通機関利用の仕方について学ぶ機会を作る。奉献会の通安とも連携する。	③ ほとんどの児童は登下校時のマナーとルールを守ることができるが、バスの中で大声で話す、駅のホームを走る等、個々に指導した事例が数件あった。	目標 100% 到達 97.7%	③ マナーとルールを守ることが命を守るにつながるという視点で、ゲストティーチャーを招き学ぶ機会を作るとともに、個別指導を継続する。

2023年度 自己評価の結果の報告書

学 校 名：賢明学院中学高等学校

評価責任者：校長 石森 圭一

	P l a n		Do	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員で「宗教教育」を進める。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	①コロナ禍の影響はまだ受けるだろうが、少ない機会を有効に使い精神や方針を伝えていく。 ②行事の開催も未確定だけに、日常生活で人間関係を作り、絆を深めるよう指導する。 ③共通の苦難を経験したことにより、自分ファーストでない生き方を身につけさせる。 ④クラスだけでなくクラブでの生徒間のすれ違いを初期の段階で発見し解決していく。	①「そう思う」または「とてもそう思う」が90.1%であった。前年度から12ポイント上昇した。 ②M90.8%、H92.1%だった。Mは前年度から2.8ポイント上昇、Hは前年度から2.4%下がった。M3は97.3%だった。 ③M91.5%、H90.1%だった。Mは前年度から0.8ポイント上昇、Hは3.6ポイント下がった。 ④M93.3%、H90.1%だった。Mは前年度から3.9ポイント上層、Hは2.5ポイント下がった。M3は100%、H3は95.9%だった。(高い順)	◆目標到達度 ①95% ②95% ③95% ④95% ◆実際到達度 ①90.1% ②91.5%(MH平均) ③92.1%(同上) ④91.7%(同上)	①前年度より改善しているので、今年同様来年度も随所で建学の精神、教育方針を伝えていきたい。 ②生徒の様子をしっかりと観察し、生徒と触れ合う時間や話す機会を大切にしていく。 ③相手の気持ちを考えてから行動できるように、また間違えれば素直に謝れるように諭し、行動する。 ④トラブルがいじめに発展する前に、人間関係で悩む生徒をしっかりサポートする。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①生徒は気持ちよい挨拶が誰にでもできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	①近隣、地域の人たちにも挨拶できる生徒を育てていく。 ②ルールを守るはもちろんのこと、より高いマナーが身に付くよう指導する。 ③学年間クラス間で指導が数字にも表れるので、指導にばらつきがないよう確認し生徒に対応する。	①「賢明の生徒は挨拶が良くできている」保護者の評価が中学92%(昨年96%)、高校86%(昨年87%)。中高ともに下がっている。 ②「学校のルールやマナーを守っている」中学82%(昨年87%)、高校86%(昨年92%)。高校は中学に比べて4%高い。 ③「学校は生活指導やモラル教育をしっかりと行っている」保護者の評価が中学88%(昨年90%)、高校88%(昨年89%)。中学は学年によって13%、高校は6%の差があった。	◆目標到達度 ①95% ②90% ③95% ◆実際到達度 ①89% ②84% ③88%	①授業終始の「挨拶」を全教員が大切にし、生徒に理解させることから徹底する。 ②ルールの目的を理解させ、生徒自らが自己指導能力を高められるように全教員で声掛けを行う。 ③すべての生活指導について、生徒と教員だけではなく、保護者にも理解してもらえる関係を構築できるように、連絡を密にとる。
3	学習における授業を第一とし、教科指導力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①チャイムとともに授業が始まり、生徒が授業に集中している。 ②分かりやすい授業のための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	①最初だけでなく、授業時間中生徒が集中できるような授業に魅力を持たせる。 ②授業公開の新しい動きさらに拡大し、お互い参観をして授業の向上を目指す。地道な前進を心がける。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践している授業を参観する機会を増やし、具体的な取り組みを自分の授業に取り入れていく。	①生徒の評価が91%、教員の評価も91%で昨年よりも1P下がるという結果であった。 ②板書や資料に対する生徒の評価は昨年に続き95%と高い。教員自身の板書項目の評価は87%で昨年より3P下がった。 ③「主体的・対話的で深い学び」に対する生徒の評価は89%で昨年より1P上がった。教員自身の評価は91%で昨年より6Pも上がった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①91% ②95% ③89%	①生徒一人ひとり丁寧に指導し、全員が集中できるようにする。 ②相互参観をして、さらに質の高い授業の向上を目指す。 ③「主体的・対話的で深い学び」を実践するための研鑽を続け、積極的に授業に取り入れていく。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②授業が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	①全体に対してだけではなくそのクラスに合った進路講演会などを実施して、生徒が主体的に進路を考える環境を作る。 ②カリキュラムを変更して、大学受験に直結する科目の時間を増やし、実力を伸ばすよう指導する。 ③入試状況の変化をしっかりと見極め、生徒たちの不安を解消しながら指導する。	①生徒たち自身が進路を考える機会があるかは、89%と横ばいとなった。中学では87%、高校では91%であった。中学では87%、中3が100%と一番高かった。 ②全体が90%と3P減。例年、中学の評価が高校よりも低くなる傾向がある。中学では88%、高校では90%となった。最も高かったのは、高3で、94%であった。 ③ 継続中	◆目標到達度 ①95% ②95% ③国立10名など ◆実際到達度 ①89% ②90% ③	①進路行事の意図を確認するとともに、なるべく早い段階で進路に対する生徒個別の目標を定め、それに向けて教員が協力して指導する。 ②授業内容が大学入試に対応しているか確認し、教材や課題の意図を説明するなど生徒へのアプローチにも力をいれていく。 ③入試情報を確実に収集し、生徒たちの不安を解消しながら指導する

	P l a n		Do	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人に対応するのではなく、チームで対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができています	①その日に伝えることはその日に電話することをより徹底させ、保護者との連絡を密にする。 ②管理職、学年団、スクールカウンセラー、養護、学年主任会など緊密な連絡を取り合い、問題に対処する。 ③生徒たちが教員同士の一致をさらに実感できるよう、教員が同じ方向へベクトルを向け協力して問題の解決を図る。	①95%の教員が家庭へ必要な連絡は迅速に行っていると考えているが、保護者評価は88%で、昨年とほぼ同じ評価。昨年とは逆で高校が4ポイント上がり、中学は4ポイント下がってしまった。 ②保護者からの相談に対する満足度は昨年の94%から2ポイント下がってしまった。教員がチームで動いているも同様に2ポイント下がっていることと関係していると思われる。 ③教員同士の協力について、全体評価としてはわずかな下降だが、生徒評価の「そう思わない」の割合が2ポイントもあがっていることは今後の課題として反省すべき点である。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③90% ◆実際到達度 ①88% ②92% ③91%	①中高とも保護者の目線で迅速丁寧な連絡を心がけ、必要な連絡が抜けないうち注意する。 ②今まで以上に関係部署で情報を共有し、チームで対応することを心がける。保護者対応は基本的なポイントを見直し、不満につながらないように留意する。 ③教員が協力し合っていないと思われるような言動を生徒の前で控えることはもちろんだが、学校目標を共有し、職業人としての意識を持った教員集団を目指す。
6	生徒を大切にすこまやかで温かい生徒対応をする。生徒会活動が生徒たちの自主的な活動の場になるよう指導する。	①生徒が笑顔で学校生活を送っている。 ②生徒が素直に教員の指導を受け入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居場所がある。	①今後もコロナ禍のために人間関係に制限がかかる中、生徒の小さな変化に気づきすぐに対応する。 ②自分たちが普通だと思っている言葉遣いを見直し、改善していく。 ③コロナにも負けず、生徒たちが安心できる学校作りを協力して取り組む。	①「学校は楽しく有意義で満足している」中学93%（昨年89%）、高校90%（昨年93%）。2学期末時点での笑顔調査「1日1回笑顔になれる」中学96%。高校98%。 ②「学校は生活指導やモラル教育をしっかり行っている」保護者の評価が中学88%（昨年90%）、高校88%（昨年89%）。中学は学年によって13%、高校は6%の差があった。 ③「自分の居場所がある」中学96%（昨年93%）、高校96%（昨年98%）。中学は昨年より3%上がった。	◆目標到達度 ①95% ②95% ③95% ◆実際到達度 ①92% ②88% ③96%	①今年度から行っている高校笑顔調査も継続し、生徒への声掛けのためのツールとして活用し、接する機会にしてコミュニケーションを多くとる。 ②授業だけが教員と生徒の関係にならないように、休み時間、昼食時間、行事などでコミュニケーションを教員側から積極的にとるようにして、生徒理解に努める。 ③面談する機会をこれまでよりも増やして、日ごろの生徒の些細な変化に気が付けるように、教員がチームになって情報交換を多くとるようにする。
7		①生徒はクラブ活動・委員会活動に積極的に参加している。	①今年こそ体育大会、秋麗祭、クリスマスブローチなどの行事を実施し、生徒主導で作りに上げていく。	①生徒評価の項目にある「生徒は、学校行事や生徒会活動、部活動に積極的に参加している」は、中学生がプラス1.8ポイント、高校生がマイナス1.7ポイントとなっている。学年で比較すると中学はM3のポイントが高く、M2のポイントが低い。高校はHⅢのポイントが高く、HⅠのポイントが低い。 保護者評価の項目にある「生徒会活動は、活発であると思う」は、中学がマイナス7.3ポイント、高校がプラス3.3ポイントとなっている。学年で比較すると中学はM3のポイントが高く、M2のポイントが低い。高校はHⅢのポイントが高く、HⅡのポイントが低い。 教員評価の項目にある「クラブ活動、委員会活動に積極的に関わり、生徒の状況を把握している」は、マイナス7ポイントであった。今年度の生徒評価・保護者評価を学年で見ると、中学・高校ともに最高学年であるM3とHⅢの評価が高くなっている。また、中学の生徒評価はポイントが上がっているが、保護者評価は下がっている。高校の生徒評価はポイントが下がっているが、保護者評価は上がっている。教員評価はポイントの減少している。		①学校行事（秋麗祭）はコロナ前の形に戻すことができたが、飲食のチケット販売はデジタル化を導入し、チケット販売を改善する。また、学院周辺の小学校・中学校・地域の方々に招待状を配布し、多くの方々に来場していただけるようにする。生徒会活動（専門委員会）は、中高ともに「活動」できる内容を計画し実施することが目標だったが、生徒・教員への周知ができていなかった。教員評価の項目である「クラブ活動や委員会活動」の評価は、昨年よりも下がっている。委員会活動を通して生徒が成長できる場になるような環境にする。部活動では、クラブ顧問会で顧問とコミュニケーションをとり生徒にとって充実したクラブ活動になるようにする。



		<p>②生徒会活動がボランティアなど他者に目を向けられている。</p> <p>③クラブ指導が活発で、生徒も生き生きとしている。</p>	<p>②実践的なボランティア活動を教員が共に始めていき、生徒たちの自発的なボランティア活動へつなげる。</p> <p>③限られた時間内で生き生きと充実したクラブ活動ができるように、活動を見直し工夫していく。</p>	<p>②生徒評価の項目にある「生徒は、ボランティア活動に積極的に取り組んでいると思う」は、中学がプラス 5.4 ポイント、高校がマイナス 3.1 ポイントとなっている。学年で比較すると中学は M3 のポイントが高く、M2 のポイントが低い。高校は HIII のポイントが高く、H II のポイントが低い。</p> <p>③保護者評価の項目にある「学校は、クラブ活動等の指導では、生徒を育てる事に努めている」は、中学がマイナス 0.8 ポイント、高校がマイナス 5.1 ポイントとなっている。学年で比較すると中学は M3 のポイントが高く、M1 のポイントが低い。高校では H I のポイントが高く、HIII のポイントが低い。今年度の結果から、中学は学年が上がるにつれて保護者評価が高まっているが、高校は学年が上がるにつれて保護者評価が低くなっている。</p>	<p>◆目標到達度</p> <p>①90%    ②85%</p> <p>③90%</p> <p>◆実際到達度</p> <p>①85%    ②79%</p> <p>③86%</p>	<p>②中学は HR の時間を使って学年で地域の清掃活動などを実施しているが、高校生はその機会が少ない。さまざまなボランティア活動の案内が来ているが、掲示板に貼るだけになっているため、今年度よりも Teams を活用して生徒が参加できる環境をつくる。</p> <p>③今年度の評価では中学・高校ともにマイナスのポイントになった。クラブ活動においては、顧問の指導はもちろんであるが、時間や場所の充実も必要である。今ある環境をさらに改善し、生徒にとってよりよい環境にしていく必要がある。また、生徒のニーズにあったクラブ運営ができていないかを見直していかなければならないのではないかと考える。</p>
8	<p>大学入試改革や新指導要領への対応をいち早く取り組み実践する。</p>	<p>①情報の収集や対応がいち早くなされている。</p> <p>②新しい取り組みがなされ、授業が進化している。</p>	<p>①各教科で大学入学共通テストの分析を行い、それを授業に生かしていく。</p> <p>②オンライン授業で得たものを対面の授業にも生かし、授業の形を大きく変えていく研究を個人や教科でも進め、実践していく。</p>	<p>①教員自身が教育制度の改革に取り組む姿勢の評価は 64%と 7%減となった。提供されているオンライン研修会が担任業務やクラブ活動で、参加しにくいのかかもしれない。</p> <p>②授業内容を改善しているという教員評価は 98%で昨年よりも 3P 上がった。本校教員が日々意識し、実行している成果であろう。</p>	<p>◆目標到達度</p> <p>①90%    ②95%</p> <p>◆実際到達度</p> <p>①71%    ②98%</p>	<p>①校内の研修や Find アクティブラーナー、進路情報の発信など校内の取り組みを継続するとともに、外部研修会へも積極的に参加する。</p> <p>②オンライン授業で培った力を通常の授業にも活かし、常に授業を改善し続ける努力を重ねる。</p>

2023年度 自己評価の結果の報告書

学 校 名：賢明学院高等学校 通信制課程

評価責任者：校長 石森 圭一

	P l a n		Do	C h e c k		Action
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆実際到達度	◆今後の改善方策
1	カトリック精神のもと、教職員全員が進める「宗教教育」。	①建学の精神や教育方針を生徒保護者に伝えている。 ②学校には悩み事などの相談にのってくれる友達や先生がいる。 ③生徒は他人へのやさしさや思いやりを持って学校生活を送っている。 ④学校生活は楽しく有意義で満足している。	生徒を把握するための日常的ミーティングを行い、多様な背景の課題の一因として考えられる生徒の発達課題や健康問題、家庭的背景等の状況について整理する。 個別懇談・三者懇談を計画的に行い教育活動への理解を深める。 定期的に養護教諭スクールカウンセラーと通信制教員の連絡会を行い生徒の理解を深める。	①肯定的な評価が96%であった。教育目標を基に、生徒・保護者に丁寧に関わってきた。昨年と同じ結果であった。 ②昨年より3ポイント増えた。「とてもそう思う」と答えた生徒は43%であった。 ③昨年より4ポイント下がった。保護者の評価は89%であった。 ④昨年より5ポイント増えた。登校してきた生徒が充実して過ごせるよう改善に努め、生徒に対応してきた。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ④90% ◆実際到達度 ①96% ②91% ③88% ④92%	生徒の発達や時代の変化に適切に対応できる宗教教育を行うために、SHRなどの祈りや沈黙を大切に、自分と向き合い、祈る姿勢を身に着ける。 発達課題や健康状況、家庭的背景の状況について教職員、養護教諭、カウンセラーと情報共有の連絡会を定期的に行い、個別最適化できる体制づくりをする。 個別相談・三者面談などを定期的に行い、個々に応じた指導計画を作成する。
2	相手への敬意、相手を思いやる気持ちから生まれるマナーの実践。	①賢明の生徒は挨拶が良くできている。 ②生徒は学校のルールやマナーを守っている。 ③服装・頭髪・遅刻・持ち物などの生活指導を行っている。	あいさつについては、教員から積極的に行いHR活動等で生徒同士でもあいさつできるよう指導する。 生徒の行動を理解するために、入学前からの個別相談や入試相談などで学校生活におけるルール・マナーについての情報を生徒・保護者に伝え入学後の生徒指導に役立たせる。	①生徒・保護者ともに90%以上の結果となった。保護者は96%であり高評価となった。 ②昨年より4ポイント減の結果となった。生徒の結果が87%であり、担任を中心に適切な指導を行う。 ③全体の91%であり、生徒の評価は94%であり、教職員とも高い評価となった。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①93% ②88% ③91%	生徒の状況や時代即した規則の見直しも検討し、SNSの問題などにも対応する。そのために外部講師による講演なども導入する。 入学前からの個別相談、事前面談などで、生徒のみならず保護者に対してもルールやマナーについての情報を発信していく。入学後は担任を中心とした丁寧で、熱意のある指導を展開する。
3	学習・授業を第一とし、教科力のアップから生徒・教員が共に伸びる。	①開始時刻とともにスクーリングが始まり、授業に集中している。 ②分かりやすいスクーリングのための工夫がされている。 ③生徒が学習環境に満足し、意欲的に学習に取り組んでいる。	スクーリング時間を守るよう徹底し、教職員同士での意識を再確認する。 習熟度別授業や学び直しを通じて、基礎的な知識を伝えた後に、知識を整理する時間を意図的に作るなど生徒の学習状況に応じた内容にする。	①到達度は94%と高評価となった。「とてもそう思う」と答えた生徒は49%で昨年より10ポイント上がった。 ②目標到達度にはとどかなかつたが、生徒の評価は90%であった。 ③昨年より4ポイント下がったが、生徒と保護者ともに91%の結果となった。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①94% ②87% ③91%	学び直しや習熟度別授業、級別の英検対策講座などの「学習サポート」においては、各教科の連携や学年を超えた意見交換を行い、生徒の学習状況を把握する。生徒一人ひとりを理解し、個々の特性に応じた学習指導を行う。
4	生徒一人ひとりの自己実現のサポートとしての進路指導を実践する。	①生徒一人ひとりにきめ細かい進路指導、学習指導がなされている。 ②学習活動が高校進学や大学進学に役立っている。 ③進路結果が生徒の才能の開花に結びついている。	進路指導部が中心となり、生徒の進路希望と決定および進路選択の要因を分析する。 卒業生の状況報告会（ホームカミングデイ）を充実させて、在校生の意識を変える機会とする。 担任による個別懇談などを通して個別サポートを充実させ、進路実現ができるよう意識を高める。 進路だよりは定期的に発行し、進学における目標設定や最新の情報なども積極的に伝える。	①昨年より3ポイント下がった。保護者が84%であるため、進路指導の内容を保護者に伝わるよう改善する。 ②昨年より4ポイント下がり77%となった。進路に関わる評価が毎年の課題である。 ③全体の評価が90%となり、昨年3ポイント上がり、今回は5ポイント上がった。進路のニーズに応えるよう取り組む。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①87% ②77% ③90%	生徒と保護者を対象とした学年別の進路講演会開催や外部の合同進路相談会などの引率を通し、個々の進路相談による個別サポートを展開し進路指導の充実を図る。 大学のキャンパス体験や専門学校での職業体験を特別活動で行い、幅広い選択肢の中から、生徒が主体的に進路を探る。 生徒の才能を開花させるための新たなコース制設置などの発展を目指す。
5	保護者との密な連絡と意思疎通を図る。	①学校で問題が起こってもそれが解決している。 ②担任など一人で対応するのではなく、教職員全員で対応している。 ③学校全体で問題に取り組み、統一した指導ができている	新入学・転入学生については生徒・保護者の理解を深めるための面談結果を全教員が理解できるよう、新たな生徒情報シートを作成する。 担任と保護者との連携に加えてkenmei.infoは入学時に必ず登録させて綿密な連携を図り情報を共有する。	①全体の評価が95%となり、高評価となった。毎年、高い評価を得ている項目である。 ②目標到達度に3ポイントとどかなかつた。従来どおりにいかない業務もあるが一人ひとりに丁寧に対応してきた。 ③生徒、保護者、教職員共に90%の結果となった。毎年、高い評価となっている。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①95% ②87% ③90%	生徒を正しく導いていくために担任制を継続していくとともに、教職員全員で共通理解をもつ。担任を中心に保護者と密な連携を行い、学校の方針、生徒の現状、働きかけ方を明確化し、教職員同士で共有する。 kenmei.infoは入学時に全員登録させて、学校、保護者、生徒のスムーズな連携を図る。

	P l a n		D o	C h e c k		A c t i o n
	◆重点目標	◆評価指標	◆目標達成の為の具体的取組	◆自己診断 ◆別紙：関係者評価	◆目標到達度 ◆実際到達度	◆今後の改善方策
6	生徒を大切にすることを やかで温かい生徒対応 をする。	①生徒が笑顔で学校生活を送って いる。 ②生徒が素直に教員の指導を受け 入れる関係が築けている。 ③学校の中に生徒一人ひとりに居 場所がある。	入学前の個別相談・入試相談などを通じて生 徒の家庭環境や学習状況などを理解する。 面談にて得た情報については、教職員同士で 生徒指導の充実を図るために、養護教諭・ス クールカウンセラーの情報を共有するととも に、報告会などを通じて教職員との連携をさ らに深める。 生徒の居場所づくりのために、教室などの環 境の充実と生徒の内面を理解するための定期 的な三者面談と日常的に個別面談を行う。	①昨年と同様の結果となった。一人ひとりを大切に する通信制にとって、目標に到達するよう適切 に対応していく。 ②昨年は3ポイント上がったが、今年度は3ポ イント下がる結果となった。 ③生徒の評価が92%、保護者の評価が91%で あり、増減の幅が大きい項目であったが、安 定した結果を出すことができるようになってい る。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①87% ②87% ③91%	入学前の個別相談や事前面談を今後も継続し ていき、生徒一人ひとりの理解に務めること を習慣化していく。 今年度実施した医学部との研修会のように外 部の様々な機関から学び、生徒の多様性に配 慮する教育を展開する。そして、生徒や保護 者が安心して過ごすことのできる学校や生徒 の個を活かすことのできる環境づくりや異な るニーズや視点を理解していく。
7	特別活動が生徒たちの 自主的な活動の場にな るよう指導する。	①生徒は特別活動に積極的に参加 している。 ②生徒会活動がボランティアなど 他者に目を向けられている。 ③特別活動が活発で、生徒も生き 生きとしている。	特別活動の満足度は非常に高く、本校の教育 活動の長所となっていると考える。 望ましい集団活動や体験的な活動内容を引き 続きを計画する。 卒業後も社会でコミュニケーションの向上や 社会性を身に付ける活動を実施し、生徒が主 体的に取り組むよう指導する。 社会・自然・環境のテーマに芸術を加え、さ らなる進化を目指す。引き続き事後指導シー トを活用し自己評価を行い、生徒自らが振り 返り、考えを整理し、生徒の心身が成長する よう担任が積極的に関わる。 各クラスでの活動の中でも清掃活動などをボ ランティア活動と位置づけるとともに、キャ リア教育の視点としての活動を計画し、社会 で必要となる能力や態度を育成する。	①学習要素の強い取り組みを検討してきた。目標到達度 に1ポイント不足だったが、さらなる検討を重ねたい。 ②全体で75%の結果となった。到達度の低い項目である が、生徒、教職員ともにボランティア意識を高めたい。 ③毎年、高評価を得ている項目である。保護者評価のうち 「特別活動は活発であると思う」の項目は99%であり、最 も高い評価を得た。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①89% ②75% ③95%	特別活動が学校生活や単位習得、進路指導に つながるよう「学びの要」として発展してい く。 「仲間づくり、文化・芸術、自然科学、キャ リアガイダンス」とカテゴリーを分けて、系 統的に学習することで、生徒が成長できるよ う活動を計画・実施する。 LOOK BACK SHEET（活動後の振り返りシート に）については内容を見直していき、新たな自 己分析をすることにより問題解決を実践し、 新しい知識を習得していくことの大切さも学 ばせる。 ボランティア活動においては特別活動の一環 として取り入れる。地域の清掃活動や特別活 動の運営ボランティアなど、社会奉仕の精神 を養う体験的な活動や就業体験活動を行う。
8	大学入試改革や新指導 要領への対応をいち早 く取り組んでいく。	①情報の収集や対応がいち早くな されている。 ②新しい取り組みがなされ、スク ーリングや進路指導が進化してい る。 ③学院全体の教育が系統的に行わ れている。	外部研修会に参加し、研修内容を共有するよ う継続して取り組む。 スクーリング内容については、生徒の学習状 況に応じた内容に進化していくよう見直す。 社会に求められる通信制高校であるために、 目の前の生徒の状況を踏まえながら、教育活 動は不断の見直しを図る。 生徒の発達段階や地域の実態に即して、教育 目標を具現化するために教職員一人ひとりが 本校らしい教育活動を行う。	①昨年より5ポイント減の結果となった。昨年度より目標に 到達してないため改善が必要である。 ②87%であり目標には到達しなかったが、昨年より9ポ イント上がっている。生徒の評価は90%ありスクーリングの構 想が練られてきた。 ③93%の高評価であった。生徒指導、教務、保健などが連携 し、順序立てて教育活動を行った。	◆目標到達度 ①90% ②90% ③90% ◆実際到達度 ①84% ②87% ③93%	各分掌や担任が連携を取り一定の順序や、法 則に従いながら、一人ひとりの生徒や保護者 の思いに丁寧に対応する。 生徒数の増加にともない、通信制の生徒全員 が一堂に会することが困難になってきたた め、新たな形を模索することもでてきた。新 たな通信制教育のための改善と効率化を目指 し、発展する機会であると捉えて、本校らし い教育活動へと進化していく。

## 2023年度 学校法人賢明学院 学校関係者評価の結果の報告書

<評価委員名>

委員名	喜代田 洋志（保護者・卒業生）	久保 善見（保護者）
-----	-----------------	------------

<委員会実施日>

実施日	第1回 2023年5月19日（金）	第2回 2024年2月24日（土）
-----	-------------------	-------------------

<評価の概要>

幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、園行事もコロナ禍前に近い形で実施いただいていることに感謝している。コロナ禍において、子どもの園生活の様子を SNS 等で発信される機会が多くなり、保護者にとっても簡単に見られることは安心できる一つの要素にもなっているが、一方で、対面の機会がまだ十分に復活しているとは言えないと感じている。保護者集会の開催回数や内容の充実、そして保護者への教育も併せて検討をお願いしたい。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園と同じく、行事等がコロナ禍前に近い形で実施いただいていることに感謝している。また宗教教育に関しては、濃密になっていると感じており、継続して取り組んでいただきたい。一方で、いじめ対策に対しては、隠ぺいする先生はいないと見受けられるが、見えていない先生がいるのではないかと感じており、ベテランの先生方にフォローいただくなど対策を検討いただき、いじめ撲滅に取り組んでいただきたい。</li> </ul>
中高	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、気になっていた学校行事に対する生徒たちの姿勢について、今年度は自主的に動けていると感じることができた。また通学時のマナーについても、比較的守られていると感じており、先生方の日々の教育によるものと感謝している。一方で、幼稚園と小学校に比べて、カトリック教育の時間が少ないのでは、との意見があり、特に、内部生と外部生との間に知識や意識の差が生じていると感じている。普段の学校生活から、カトリックに関する教育を取り入れるなど、宗教教育の強化を検討いただきたい。</li> </ul>
通信制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信制課程は、進学率が高いことはもちろんのこと、保護者や生徒への個別対応も非常によく、高い評価を耳にしている。特に他校から転校されてきた保護者からも評判が良いため、継続して取り組んでいただきたい。</li> </ul>
総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全所属を通して、先生方の子どもたちへの熱心な指導、教育を行なっていただいていることについて感謝したい。行事もコロナ禍前に近い形で実施していただき、教育活動が通常に戻れたことは保護者としても安堵している。しかし逆にコロナの影響により、学校から保護者への情報発信が、対面ではなくSNS等によるものが増えてしまい、先生と保護者との間のコミュニケーションが少なくなったと感じられる。各所属とも保護者集会の開催を増やすなど、対面でのコミュニケーションができる機会を増やし、保護者が気になっていることや疑問などが解消できれば、保護者の園や学校に対しての理解がより深まると考えており、是非検討をいただきたい。</li> </ul>